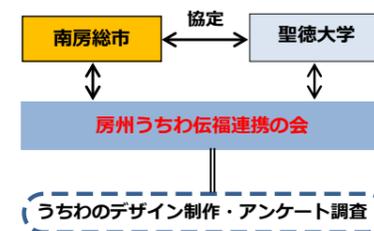




1 聖徳祭 (令和元年11月) 2,3 聖徳祭 (令和元年11月・うちわと浴衣のマッチング)
4 現地調査 (平成29年12月・大田美津江様) 5 現地調査 (平成30年9月・汐見正男様)
6 うちわは「房州うちわ伝福連携の会」が製作 7 聖徳祭 (平成30年11月) うちわのデザイン展示と販売



産学協働地域活力創造事業連携図

域学協働の工夫！

★伝統的工芸品としての「房州うちわ」を理解するため、現地調査や活動報告会に参加した学生に参加の感想とこれからの課題などのグループワークを行い、当面の問題・課題を理解するようにした。また、聖徳祭では「房州うちわ伝福連携の会」の展示販売ブースに参加し、展示販売のサポートとアンケート調査を行い、伝福連携を密にする活動を心掛けた。

きし、うちわの生産工程 21 工程の中の「貼り」工程について活動することを確認し、場面に応じたデザインを作成した。作成したデザインは報告会で発表し、アンケート調査を行い房州うちわの振興の方向性に把握した。

デザインの深化による貼り絵の提案、新規課題の伝福連携は、聖徳祭での展示・販売を実施して、房州うちわのPRに貢献した。今後は買っていただくうちわにするようさらなる努力が必要であることがわかった。

房州うちわ伝福連携の会、南房総市及び大学が協働してデザイン制作を取り組むことにより、房州うちわの振興という商工部門の他に、福祉を連携させた行政の部門を跨った活動に参画できた。

●教育・研究面

「房州うちわ」の生産を学ぶことにより、伝統的工芸品としての手作業の素晴らしさと難しさを理解し、伝統的工芸品の範疇を逸脱することなく、新しい展開が必要なことを認識できた。

*表彰・マスコミ掲載など

・特になし

デザイン制作という点から、うちわという面に展開する「ものづくり」を体験できた。さらに、行政の部門横断的な活動にも参画したことで、うちわの販売などアウトカムの指標で活動を評価する基礎を修得できた。房州うちわ伝福連携の会との連携したデザイン制作を取り組むことにより、伝統的工芸品の手作りの素晴らしさを体験できた。また、「ものづくり」の大切さと難しさを理解することができた。

今後の展開

「貼り」工程について、伝統工芸士や市の方と連携を深め、女子大学生の感性による売れる商品を展開できるプロポーザルを行い、用途や地場に応じたデザイン作成に着手していく。

デザイン制作のみならずうちわ制作に関与して、販路開拓を検討しながら販売に繋げていきたい。今後はさらにデザイン制作等で房州うちわの振興に寄与していきたい。

聖徳大学
短期大学部

2017-2019

房州うちわの魅力再発見プロジェクト

実施者

＜教員＞ 聖徳大学短期大学部総合文化学科 花見 保治 兼任講師、對比地 勝 兼任講師、松村 正明 教授

＜参加者 (担当学生)＞

総合文化学科 2年 (デザイン・インテリアプランニング、ITコミュニケーションプランニング、図書館司書プランニング)、1年 (ファッション・造形デザインコース)

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 商工観光部 商工課、市民生活部 市民課

【企業等】うちわの太田屋 太田 美津江 様、汐見団扇店 汐見 正男 様

【市民団体等】房州うちわ伝福連携の会 山元 直宏 様

背景と目的、実施内容

1. 背景と目的

南房総市には、長い歴史と高い技術に培われた「房州うちわ」があり、匠の技として経済産業省から伝統的工芸品に指定されている。しかし、生活様式の変化に伴い、うちわの生産が減少するとともに、職人さんも減るなど、問題・課題が山積している。聖徳大学短期大学部総合文化学科の教職員と学生が持つ知識と感性を活かして、「房州うちわ」の魅力を再発見し、市地場産業振興に貢献するとともに、障害者とともにうちわづくりに参画し、市の福祉行政とも連携した活動を実施した。

2. 実施内容

2017年度は南房総市を訪問し、伝統工芸士大田美津江様と市役所商工課の担当者にお目にかかり、「房州うちわ」の現状や工程、課題等を調査した。房州うちわの課題は、人材、販路、デザインの3点であり、本学が活動できる場所は、デザイン制作であると確認し、「和」、「南房総市の自然」、「縁起物」、「イベント (例：東京オリンピック)」など、各自がテーマを決め、商品づくりを目指して、ベースとなるデザイン制作を行った。製作したデザインは白浜地区で開催された地方創生事業報告会で発表するとともに、来場者に対してアンケート調査を行った。

◎現況調査・工程分析、基礎デザイン制作の作成、アンケート調査

2018年度は前年度報告会でのアンケート調査結果を踏まえ、「若者にも手にしたい房州うちわ」をコンセプトに、デザイン企

画を行った。市場リサーチやネットリサーチ、アイデア発想ワークなどを行い、デザイン制作の一助とした。新たな課題である「伝福連携」も推進するため、うちわ工房を見学し、制作工程を学ぶなど総合的なデザイン制作を行った。さらに、学生が製作したデザインを、障害者が製作したうちわを聖徳祭で展示し、再度アンケート調査を行うとともに、うちわの販売を行うなど「房州うちわ」の振興と福祉との連携に貢献することができた。

◎市場やネットリサーチ、付加価値向上の検討、「房州うちわ伝福連携の会」との協働

元年度は年度当初の打ち合わせを踏まえ、うちわの都市部での伸展を図ることを目的として、聖徳大学がある松戸を舞台としたデザイン制作と、女性目線による房総地域の新たなデザイン制作を基本とし、昨年度から協働している「房州うちわ伝福連携の会」に学生がデザインしたうちわの制作をお願いするなど、協働活動をさらに深めた。これらの活動については11月の聖徳祭に於いて、前述のうちわをファッションコースの学生が作成した浴衣に展示し、会場に来場された方に好きなデザインのアンケート調査や協働活動の感想等を聴取した。

◎女性目線でのデザイン、うちわの都市部での横展開、浴衣とうちわのマッチング

成果と課題

●地域貢献面

伝統工芸士や市役所の方から「房州うちわ」の現状と課題をお聞